

全体会午後の部Ⅱ

これより全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。まずは後半1本目の意見発表です。板野中学校3年の森金奈弓さん。『差別をなくす、その前に』です。よろしくお願いします。



『差別をなくすその前に』

板野中学校 3年 森金奈弓

皆さんは「ふれあい学習」のことをどれぐらい知っていますか。私は中学校2年生の秋、「ふれあい学習」に参加し始めました。ふれあい学習は人権について学習するところです。入ったきっかけは、仲のいい部活の先輩に誘われたことです。初めてふれあい学習の教室に行った日、誘ってくれた先輩以外は知らない人ばかりで、人見知りな私はどうしていいかわからず、教室の入口に立ったまま入れずにいました。正直、人権学習にさほど興味があったわけではなく、誘いを断ればよかったと心の中で後悔しました。そのとき、一人の先輩が「今日初めて参加してくれる子だろ。中入って。」声をかけてくれました。そして次々と自己紹介が始まり、ふれあいの人たちはみんな優しく接してくれました。そのおかげで私も輪の中に入ることができ、毎週のふれあい学習がだんだんと楽しみになり、人権学習にも興味を持てるようになっていきました。

2か月ほど経った頃だったでしょうか、ふ

れあいのスタート時間に遅れそうになりながら家を出る準備をしていると、祖母に呼び止められました。時間が気になっていた私は、ぶっきらぼうに「何？」と言いました。そんな私に祖母は、「あんたこの頃よう出かけるけど、何しにいきよん。勉強はいけるんで。遊んでばかりではあかんのじよ。集会や行かんともうちょっと勉強したらどうで?。」と言いました。私は腹が立ちました。ふれあいは私にとって大切な勉強の場所です。そして、大切な仲間がいるところ。大げさに言えば、私の居場所です。深い人権学習ができる素晴らしい場所です。そのふれあいのことを何も知らずに勝手なことを言われて、私は黙っていられませんでした。そして、

「ふれあいはおばあちゃんの思っとうようなところではないよ。勉強やってちゃんとやってるし……。人権についてしっかり話し合ったりもしよるよ。ふれあいは遊びとは違う。」と言うと、祖母は、「ほうで。ほなけど何より勉強が一番だよ。人権はそのあとからで十分だよ。」と言いました。



私は祖母の考えを聞いて、悲しくなりました。「人権について考えるのは後回し」そんな考えの人がこんな近くにいることに悲しくなりました。これだから差別はなくなるのだと思いました。

実際、この世の中にはまだ差別は残っています。それは、祖母のような考えを持っている人がいるからで、その人たちが人権の大切

さについて学べば差別はなくなるはずです。でも、今のままでは無理だと思います。たとえどれだけ人を集めて人権講演会をしても、やる気のない人の心には何も届きません。それは人権の大切さをわかっていないからです。テレビや新聞などで、時々「差別をなくそう」というキャンペーンを見かけます。もちろんたくさんの人に呼び掛けることも必要です。でも、それだけではだめだと思います。まずは身近なところから意識していかないといけないのです。

私たちは日常会話の中で「～のくせに」「～より上」などの言葉を使っていませんか。友達に冗談でも「死ね」「殺す」などと言っていますか。そんなことくらいで、と思う小さなことですが、その言葉を止めるだけで少しずつ変わっていきます。自分の身近なところで無意識に差別している人や、差別を許している人が、社会全体の差別をなくすことなんて無理です。差別をなくすには、自分や自分の近くにいる人を見つめてください。家族や友達、クラスメートは、だれかを傷つけていませんか。誰かに傷つけられていませんか。たった一言で大丈夫です。その人たちに声をかけてください。そんな小さなことの積み重ねが、差別をなくすために必要だと私は思います。

私も一番身近な存在である家族から始めていきます。まだ私の思いはおばあちゃんに十分にはわかってもらえてないけれど、何度でも何度でも私は人権の大切さについて話していきます。諦めず、少しずつでも私の気持ちをわかってもらえるよう、伝えていきたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。続いて後半2本目の意見発表です。高浦中学校3年の片岡あいさん。『一人の人間として』です。よろしくお願ひします。

「一人の人間として」

高浦中学校 3年 片岡 あい

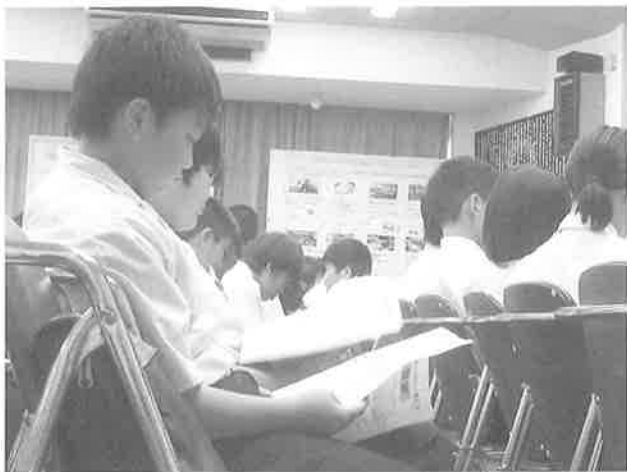
昨年の10月19日から21日までの3日間、私は職場体験学習で「有誠園」に行きました。

「有誠園」とは、家庭での介護が難しい身体障害者の方を受け入れ、その方にあった看護と介護を行っている障害者支援施設です。私は小学校のとき、ダンスを習っていて「有誠園」の夏祭りに参加したことがありました。また、母が以前「有誠園」で働いていたこともあって、一緒に職場体験学習に行く他の人よりは「有誠園」や身体障害者の方について、よく知っているつもりでいました。でも心のどこかに、差別意識が眠っていました。「目が見えなくても、手や足が不自由でも、みんな人間だ。何の違いもないはずだ。」と、口先ではいくらでも言えます。いや自分も心からそう考えていると思いたかったのかもしれませんが。でも、いざ、職場体験学習で「有誠園」に行くと決まったときには、何か心にひっかかるようなものがありました。



10月19日、職場体験学習の初日を迎えました。園内を案内されてから利用者さんと一緒に園内を飾るペーパーフラワーを作りました。ここでは、入居している身体障害者の方を「利用者さん」と呼んでいました。初日の緊張のせいもあってか、なかなか会話が弾みませんでした。それでも利用者さんたちは笑顔を絶やさずに話しかけてくれたり、手伝っ

てくれたりしました。時にはスタッフの方に手を借りながら、ごこちない手つきで一生懸命に花を作ってくれました。その日の仕事はほとんどが花作りで、私自身、途中で飽きてしまいそうになりました。しかし、私のために「手伝ってあげたい」と頑張ってくれている姿が、私にやる気を取り戻してくれました。それとともに、何の根拠もなく「障害者の人は暗いんじゃないかなあ」と思っていた気持ちがすっかり消え去り、すがすがしい気持ちになりました。



その後2日間も、利用者さんと一緒に多くの時間を共にしました。初日に手伝ってくれたメンバーの方は、翌日もその翌日も自分から手伝いに来てくれました。一日一日打ち解けていくのがわかりうれしくなりました。お互いに名前呼び合い、言葉を交わすようにもなりました。また、話をしたことの無い利用者さんでも、私が廊下を歩いていると「おはよう。」と笑顔であいさつをしてくれました。「全然普通じゃないか。私は何を構えていたんだろう」と思いました。もしかしたら「ふつう」という言葉が偏見や差別のような意味をもっているのかもしれませんが、しかし、他に言葉が見つからないのです。利用者さんは一人ひとりの人間であって、「障害者」なんて特別なワクに入れる必要はないんじゃないか。「みんな普通」正直、そう思いました。

最終日、私は「有誠園」で働いている方にインタビューをしました。そのインタビュー

の中に印象的な一言がありました。「介護福祉士を目指している人へのアドバイスはありますか」という質問に対して、その方は、「身体障害者は特別な存在ではなくて『同じ人間』です。目が悪い人がメガネをかけるように、足が不自由だから車椅子を使っているんです。そのことを頭においておいてください。」と言われました。「本当にその通りだな。この気持ちがコミュニケーションの原点だな。」と思いました。ここで働いているスタッフの方はまっすぐに利用者さんと向き合っていました。「障害者」という特別扱いではなく、一人の人間として家族のように、友達のように接していました。もちろん、障害者だからとあきらめたり、妙に甘やかしたりはしません。「一人ひとりが自分の力でできることを精一杯サポートしよう」そんなスタッフの方の前向きな姿勢や思いが伝わり、利用者さんも明るく生活しているんじゃないかと思いました。



職場体験学習の3日目の夕方には、利用者さんへお別れのあいさつをしました。そのとき、「もう終わってしまうのがさみしい。」と言ってくれた利用者さんがいました。私も同じ気持ちでした。3日間でこんなにも仲良くなれたことを本当にうれしく感じました。私にとって職場体験学習は、さまざまな立場で生きている人と出会った3日間でした。この3日間を私はこれからの日常にどう生かしていっていいのでしょうか。それは、目の

前の差別や偏見に負けず、それぞれの人のよさや違いをありのままに受け入れていかなければならないということだと思います。来年になれば、私も新たな世界に一步を踏み出します。そこでも、いろいろな立場の人と共に支え合って生きていこうという思いが、今私の心の中に広がっています。これから先、一人の人間として「差別をしない、させない、許さない」人間、そして、人と人とのつながりを大切にできる人間に成長していきたいです。すべての人が幸せに生きるために……。

司会者 ありがとうございます。続いて後半3本目の意見発表です。吉野中2年高橋和さん。『ふつうの基準』です。よろしくお願いします。

「ふつう」の基準

吉野中学校 3年 高橋 和

「あれって変だよな」

「ふつうでないよなあ」

このような言葉をよく聞きます。そのたびに私は、「ふつう」ってどういうことだろう、と考えていました。そんなとき、道德の授業で、気になる資料に出会いました。

「僕はヘンタイが好きだ」

この資料は、伏見憲明さん^{ふしみのりあき}という、性同一性障害の筆者が、書いたものです。クラスのみんなは、「ヘンタイ」という言葉を聞いて、笑っていたけど、私はなぜ、「ヘンタイ」が好きなのかが気になって、笑うどころではありませんでした。そして、この資料を読んでみて、何よりも心を惹かれたのは、次の一文でした。

『「ふつう」っていう、実ははっきりしていない、中心点からの距離をはかりながら生きるの、疲れる』

私は、その通りだと思いました。誰にでも感情があり、好きなものや、大事にしている

もの、考え方は、違って当たり前です。それなのに、「ふつう」はこうだから、それに合わせなさい、と言われるとつらい。それは、私が前から思っていたことと、まったく同じ考えでした。



私は、マイペースで大ざっぱなところがあり、みんなが気にするようなことが、気にならない、というところがあります。また、仲良しの子とは何もかもいっしょがいい、というタイプではなく、男子と話をしたり、一人でいる方が楽なときもあります。クラスの友達と話をしている、「変わるとるなあ」と言われたことがあり、「自分は当たり前のようにやってるけど、周りからは、変わっているように見えるのかな。」と思うことがあります。そんなことを考えていると、友達の視線や、周りの考えが気になってしまい、どう思われるかを気にしながら言葉を選んだり、みんなの「ふつう」に合わせようとして、動くことができました。私は「ふつう」じゃないのかなと不安になっていたのだと思います。

そんなときに、「ぼくはヘンタイが好きだ」という資料を勉強しました。ちなみにヘンタイというのは、「自分を規準値に近づけようとしたり、性格などを決めつけられることから、降りちゃった人たちのこと」を指しているそうです。この資料を読んで、私も、みんなの「ふつう」にとらわれ、それに合わせようとしていたのではないか、ということに気がつきました。それと同時に、私の周りには、

ありのままの私のことをわかってくれる家族や、友達がいることにも気がつきました。そして、今は、「ふつうじゃない」と思われることより、なりたいうように、生きられていないことの方が、嫌だと思うようになりました。

また、別の日の道徳の授業では、ハリウッドスターの、トムクルーズについて、話を聞きました。トムクルーズには、幼い頃から、学習に対する障害があり、教科書や黒板の字を読んだり、理解したりすることが、とても難しかったそうです。けれど彼の友達も、彼の活発なところや、良いところをきちんと見つけて、受け入れたのです。私は、トムクルーズの周りにいた友達こそ、最高の仲間だと思います。私は、これが私たちのクラスや、学校だったらどうだろう、と思いました。トムクルーズの長所を受け入れ、彼を大スターにすることはできたのでしょうか。残念ながら、「ふつうじゃない変だ」と決めつけてしまう人も、いるのではないのでしょうか。自分で勝手に、「ふつう」の基準を決めて、この子は「ふつう」の基準に合っていないから、いじめる、でもこっちの子は、自分と好み合うし、自分の気に障ることも言わないから仲よくする。体型や容姿で、その人のことを判断する。そのようなつきあい方は、自分の価値観を押しつけ、相手の個性や才能を、殺しているのと同じではないのでしょうか。性格や、考えの違う人同士では、仲間になれないのでしょうか。

私が小学生の頃、病気で入院していた時、ある女の子に出会いました。その女の子は、重い病気のため常に点滴をしていて、髪型も、男の子のようにスポーツ刈りにしていました。みんなが勝手に決めた、「ふつう」という基準で見れば、その子は「ふつうではない人」かもしれません。初めて出会ったとき、その子は、まるで以前から友達だったように優しく話しかけてくれました。私たちは、すぐに本当の友達になりました。彼女は、とて

も明るく、誰に対しても平等に接します。「ふつう」なんていうことにこだわらず、どんな人のことも、受け入れようとします。そんな、年下の彼女のことを、かわいい妹のようにも感じるし、素晴らしい人間性をもつ彼女のことを、とても尊敬しています。彼女が、みんなの「ふつう」からかけ離れた人であったとしても、私は彼女が大好きです。

みなさん、もう一度、私たちがとらわれている、「ふつう」について、考えてみてください。伏見さんも、トムクルーズも、私の友達も、周りの人に受け入れられたときには、すごくうれしかったと思います。

私たちの吉野中学校を、トムクルーズの仲間のような集団にしていきませんか。私も、「ふつう」という基準から、遠い場所にいる人たちに対しても、その人の良さや、価値を見つけ、受け入れることのできる人になりたいです。そして、相手の存在を否定する人ではなく、「あなたはあなたのままでいいんだよ」というメッセージを送ることができる人になっていきたいです。

ご静聴ありがとうございました。



司会者 ありがとうございました。それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。また、前半で発言しきれ

ていない人や、付け加える内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、ぜひ発表してください。

名和中学校 m 午後の部 I 回目のことで、nさんが発表したことは言い方が難しかっただけで、ちゃんとしたことは言ったので誤解しないでほしいです。



中山中学校 w 私もさっきの発表のように「ふつう」について最近考えるようになりました。「ふつう」っていうのは個人個人で考え方が違うので、いろんな人の「ふつう」を認められるようになりたいと思いました。

屋島中学校 a u さっきの発表を聞いて、「ふつう」って言葉は普段何気なく使っているけど、それが自分の中のものさしになっていて、それを相手に強制させるようなことはいけないなと思い、「ふつう」について考えさせられました。あと、差別についての話をしたいと思います。差別をなくすために私たちは今、学習しています。でも、部落差別とか、差別は知らない、「それ何？」という話になって、差別はしないと思います。少し知っている、中途半端に知っているということで差別が起こると思います。でも、中途半端に知るのではなくて、ちゃんと知って、知ることとはなぜその差別が起こっているのかその原因から調べていくと思うのですが、その原

因を調べることによって「ああ、だから差別されているんだ」って。逆に自分も差別をする人になるんじゃないかって、差別をなくしていくことが大事だと思いました。



屋島中学校 a v さっきの3つの発表を聞いて、私は最初、周りのみんなに合わせていたり、人権ということにあまり興味がなかったけど、この人権集会で差別というものが分かったし、普通じゃないと言われていた人でも自分なりのいいところがあるということがよく分かったので、私もそれについてちゃんと考えていきたいと思いました。

板野中学校 h 私は、板野町でふれあい活動と中学生友の会に入っています。その理由は、ふれあい活動の方は父に勧められて、中学生友の会の方はおもしろそうだからで、両方とも人権について語り合うところです。

板野中学校 a r ハンセン病問題のこととか勉強とか、いろいろなことをふれあい活動の中でして、中学生友の会では、部落差別やいじめ、水平社宣言のことについて勉強しています。これらの活動に参加している理由は、自分のことに関わりはなく、勉強することは損でも得ということでもないけど、普通という感じで勉強させてもらっています。

司会者 ここで、たくさん高校の人達が来てくれているので、意見を聞きたいと思います。

科学技術高校 aw 皆さんの作文や意見を聞いての感想になるんですが、私が2年前のこの会では副実行委員長をしていました。(その時は)ほんまに何もできませんでした。ただただ、私がこの会で泣いたビデオがあるそうです。何もできずに。2年ぶりに来てみて、自分の後輩達が活躍しているのを見て、すごく誇らしいと思いました。何より私たちがこの会にいた2年前と比べて、こんなに人が増えていることがすごくうれしかったです。国府中学校さん、高浦中学校さん、鳴門第二中学校さんとかが来てくれているのですごくう



れしいです。私の時は、いつもお決まりのメンバーで、お決まりの人らでやっていました。私が小学校の2年からこの活動をずっと続けてきているのですが、十年ぐらい経ちますが、未だに何も成長していません。でも、この会を通していく中で、すごく友達が増えました。私の同期で地元で活躍している人は少なくなりました。私とあともう1人、2人ぐらいしかいません。でも、その2人も遠い高校へ行ってたり、部活で来れなかったりして、私1人になりました。でも、こういう会でいろんな子と通じていく中で、地元の子よりももっと人権について語り合う友達がめっちゃ増えました。私の信頼している仲間は今ちょっと(ここに)いないのですが、その子の分もがんばろうかなと思っています。こんな私ですが、中・高による人権交流集会の実行委員長になってしまいました。また来てください。

私がいる中部ブロックはめっちゃ適当なところで、話がすぐ脱線し何もまとまん所ですが、私にとってすごくかけがえのない大事な場所です。作文にあったように、私の居場所です。今日来ている子は、もっと意見を言ったらいいと思うし、まだ中学生やけん何を言っても通されます。私は中学生の時、たくさんのお言葉を言ってきました。でも、高校生になって言ったらあかんことと言っていいことの区別がちょっとつくようになって、自分の意見の通り言えないのが辛いです。中学生の時は、年上年下関係なくずばずば言っていました。何を言っても大人とか周りがフォローしてくれるので、今言っている子はだいたいお決まりのメンバーになってきているので、もっといろんな子が言ったらいいと思います。

城北高校 ax 私が話す内容は、全体会午前の部でしゃべらなければいけなかったのかなと思うのですが、午前の部の講演で講師として来てくれていた応神中学の卒業生の人達の言葉が、ずーんと心に響いたんですよ。何



でこの人達の言葉はこんなにも響くんだろう、重いんだろうと考えたんですよ。考えたら当たり前のことなのかもしれないんですけど、卒業生の人達は中2の時から吉成先生が担任で、人権の指導をしてくれていて、それからいままですと本気で全力で、人権活動をしてきた、人権について語ってきたと思

うんですよ。だから、その人達の言葉は重し、響くんだろうなと思いました。私は去年、城西中学校の3年の時、吉成先生が担当で、吉成先生から「この中学生交流集会に行ってみないか」と誘われて初めて来ました。私が今までやってきた中学校での人権活動は、何となく分かるし、差別はいけないことなんだろうなと思っていましたけど、それは何となくでした。それに対して何かをしたいとは思いませんでした。きっといつかはなくなるし、今じゃなきゃいけないのか、今すぐにはなくなるよなって感じでした。この交流集会に来て、自分たちより年下の子や自分と同じ学年の子とかの発言を聞いて、あっ、本気の子がおる、私も本気になってみたいと思って、その時本気でがんばったんですよ。その時は本気で全力だったんですが、この会が終わった後も本気で全力で人権活動をしてきたのかと言われたら、それは違うんですよ。その後も継続して本気で全力でやってきたわけではないんです。受験があって、高校に上がって、その時にも吉成先生から「中・高生集会があるよ。行ってみないか」と誘われて行ってみたら、そこに同じ高校の先生がいて、「社研部に入ってみないか」と誘われて社研部に入りました。それでまた、吉成先生から今日のことを聞いて来たんですけど、やっぱりすごいなと思いました。結局私は、周りの子がいなければ本気になれないし全力になれないし、環境がなかったらできないし、その本気も全力も一時的なものなのかなと思いました。本気で全力で続ける人達の言葉が重かって、それで私もそんな風になりたいなと思って。これからもがんばってください。

鳴門第二中学校 a y 初めの意見発表で、友達に冗談でも「死ね」、「殺す」などと言っていますかとありましたが、僕もたまに友達にそういうことを言ってしまう。それが冗談でもだめなんだと気づきました。



屋島中学校 o 先ほどの高校生の先輩の話、とても感動しました。今、この会に出席して、僕は初めて人権について熱くなりました。とてもいい会だと思います。『一人の人間として』の意見発表の中にあつた身体障害者の人達が仕事をしている施設が、僕の家の前にもあります。その施設に1回だけボランティアとして参加したことがあるんですが、皆さん手先が器用で、やる気がすごくあつて、もしかしたら障害がない人よりもやる気があるんじゃないかな。いつも笑っていて。この文にも書いてある「ふつう」という枠の中に入っていて、障害者という特別な枠に入れる必要はないんじゃないかなというふうに、とても共感しました。

吉野中学校 f 私には好きな人がいっぱいいます。異性とかではなくて、好きになるということはその人に惹かれているんだと思います。嫌なところもいいところも全部好きだからいっぱいいるんだと思います。好きな人を増やしていけるようになりたいです。

中山中学校 a z 『一人の人間として』の意見発表を聞いて、私も差別はいけないと分かっているけど、実際に目の前で車椅子の人や目の見えない人を見ると普通じゃないと思ってしまうかもしれないから、心の底から差別はいけないと思える人間になりたいと思いました。

屋島中学校 b a 『ふつうの基準』の意見発表を聞いて、たくさん「ふつう」というのを気にしながら色々と言ったりしている人がいると思うんだけど、そういう人より「ふつう」というのを気にしないで、自分の好きなように、自由にやっている人の方が、実はかっこいいんじゃないかなと思いました。



藍住中学校 j 高橋さんの『ふつうの基準』の意見発表を聞いて、親や友達は「ふつう、ふつう」ってよく言うけど、「あの人は普通じゃない」とかよく聞いたりするけど、「普通じゃない」という言葉を使うということは、差別をしていることにつながっていくと思うので、意見発表を聞いて共感できると思いました。

藍住中学校 a d 私も『ふつうの基準』の発表を聞いて、「ふつう」というものは、実ははっきりとしていないというのを聞いて、確かにその通りだと思いました。人それぞれ好みも、大事にしているものとかも違うし、「ふつう」というのは、そういう言葉は差別につながっていると思います。

藍住中学校 b b 私は初めて中学生交流集会に参加しました。私も今まで友達関係とかで悩んだことがいっぱいあって、辛い時期がたくさんありました。でも、この語り合いの授

業があって本当によかったと思っています。これからも人権学習や集会とかに積極的に参加していきたいです。

藍住中学校 b c 『ふつうの基準』の発表を聞いて、思ったことを言います。「ふつうという実ははっきりとしていない中心点からの距離を測りながら生きるというのは疲れる」と聞いて、私もその通りだと思いました。みんな違ってみんないいんだから、違うのは当たり前で、みんながみんな同じではなくて、みんな違うから一人ひとり違ういいところがあって、悪いところもいっぱいあって、いろんなことも話して、好みも違って、それが人間のいいところだと思いました。



屋島中学校 b d 私は小学校の時の平和学習で、障害者についてと差別について調べることがありました。2人で調べるんだったけど、1人が転校してしまっって、最後は私1人で調べることになりました。障害者の人に対して「ああこの人かわいそうだな」とぼつんと一言つぶやいたら、いつもふざけている友達が「そういうことを言うのが差別につながるのであって、差別を調べる私たちが、そういうことを言うのはいけないんじゃないかな」と言われたことで、私は今まで「かわいそうだな」っていくつ差別してきたんだろうということに気づかされて、今回の集会に来たことでも、私は今までも差別を続けてきたんだなと気づかされました。



屋島中学校 a k 『差別をなくすその前に』の意見発表を聞いて、悪口は言っている本人も言われている人も、周りで聞いている人にも悪いイメージを与えてしまいます。なので自分はこれから、誰かを元気づけたり支えたりすることができる言葉をもっと使っていきたいと思います。

屋島中学校 b e 私は、一人ひとりの「ふつう」の感じ方は違うと思うけど、自分の「ふつう」を基準にして周りの人と比べるということは、差別やいじめにつながっていくと思うので、比べるだけではなくて、その違う部分を受け入れるようにしたいです。

吉野中学校 a m 『ふつうの基準』の意見発表を聞いて、「ふつう」の基準なんかはなくて、ただ、体のどこかが自分と違うから、何かが自分と違うからといって、自分勝手な普通の基準で、人を差別したり、人をバカにしたりするのはおかしいと思いました。

鳴門第二中学校 b f 『一人の人間として』の意見発表を聞いて、「ふつう」という言葉が偏見や差別と同じような意味をもっているということに共感しました。身体障害者だからといって特別にするのではなく、同じ人間なので区別してはいけないと思いました。

高浦中学校 a 最初の意見発表を聞いて思ったことは、たくさんの人に差別について話をするのは難しいと思うけど、発表にあるように小さな事の積み重ねが差別をなくすために必要だというのを聞いて、傷ついている人に話しかけたり、相談に乗ったりするのなら自分にもできるかなと思いました。



高浦中学校 a b 私は、高橋さんの『ふつうの基準』の発表について意見を言いたいと思います。「誰にでも感情があり、好きなものや大事にしているもの、考え方が違って当たり前」というところに私は共感しました。誰でも勉強やスポーツなど、得意・不得意はあると思います。それを陰で変とか言ったりするのはおかしいと思います。「ふつう」の基準は、一人ひとり違います。でも、努力することで自分の「ふつう」の基準は変わります。だから私は、これからもありのままの自分で生きていき、自分自身を成長させていきたいと思いました。私は今回、この会に参加できて、とてもよかったと思います。

吉野中学校 g 『ふつうの基準』の中の、「普通じゃないから変だと決めつけてしまう人もいるのではないのでしょうか」という部分は、自分の中ですごく気になったところです。自分は、少し自分と違うところがある人を、普通じゃないと決めつけてしまう人間でした。中学1年生の時からこの集会に参加して、少

しでも普段の生活でそういう考えが減ってきた自分を感じてすごくうれしく思っています。だから、これからもこの集会に参加していったらいいなと思います。

土庄中学校 bg 家族や友達に差別をしたらあかんということを帰って伝えていきたいです。



講師 永濱圭一郎さん さっきから「ふつう」ってことに対してずっと意見がたくさん出ていますね。「ふつう」っていうのはね、いっぱい「ふつう」があると思ってほしいです。たとえば、僕の大学の研究室に、イスラム教のエジプト出身の人がいて、毎日3回ぐらい決まった時間に外に出で行くんですよ。何やっているかという、メッカの方向に向かってお祈りしているんですよ。僕が1回失敗したのは、一緒にご飯を食べているとき、「この肉は洗礼された肉ですか」と聞かれて、イスラム教では豚肉は食べてはいけない、汚らしい意識があるから食べてはいけないということが有名ですが、イスラム教でもとても厳しい戒律を守っている人は、洗礼された一部の肉（注釈：ハラルと言ひ、アッラーによって許可された肉しか食べてはいけないという戒律がある）しか食べてはいけないそうなんです。僕は知らなかったから、「たぶん洗礼されとる」と適当に言ったら、そのあとめっちゃ英語でおこられました。彼は食べたこ

とをすごく神に謝っているいるんですよ。僕は本当に悪いことをしてしまいました。この



ように、いろんな「ふつう」があります。その人にとっては、それが「ふつう」なんです。障害者のことだってそうです。僕の母親が特別支援教育学校の先生で、何回か連れて行ってもらったことがあるんですけど、初めて行ったときは生徒に肩のところをかみつかれて、「何な、こいつ」と思いました。そういったときに、障害者だからしょうがないのかと思うのと、「何だ、こいつ」と思うのとどっちが正しいですかね。僕、「何だ、こいつ」の方が正しいと思いますよ。むしろ障害者だからといって、「こいつ、障害者だからかみついてくるけどしゃあないな」、「そうですか、そうですか」と流してしまう方が危ないと思います。むしろ、たくさん「ふつう」っていうのがあるから、別の、自分ではない他の「ふつう」に興味をもって理解すること、これが一番大事だと思います。障害者差別が見えてこないという人は、ぜひ、機会があれば障害者の方と実際にふれ合ってみることを本当におすすめします。先生方などを通じて、ぜひ、そういうふうにしてもらえればと思います。

講師 齋藤万里愛さん 私も身体障害者施設に勤めているんですが、みんなが思っているきれいな感じではないと思います。「普通じゃない」って見たらいけないと思うことは間違

っていると思います。私でも施設に最初に行ったときは、「ふつう」じゃないなと思いました。みんなと違うなと思いました。でもそれは、一般的に言う変だなではなくて、あれができないんだな、これができないんだな、私がいなかったらこの人らはこれができないんだなという意味での、マイナス的な意味の変だなではなくて、学校の先生とかにも障害者がいましたし、変と思うことは別に変ではないし、でもそこで終わるからダメなんであって、この人はこれが違うんやなと思って、



ああかわいそうやなって、私もかわいそうやなって思いました。かわいそうやなで終わるからダメなんですよ。かわいそうやなっていうのもいろんなとらえ方があるじゃないですか。たとえば、私の施設の人が七夕に短冊に書いた願い事の内容は、みんなからしたら変だなと思うような、「ふつう」じゃないなと思うようなことをたくさん書いてます。みんなが当たり前でできることを書いているからです。でもそれは、私たちが手伝うことによってできることもありますし、だから私らがいるんであって、私らがいなくなったら、施設の人ほんまに1週間ぐらいでほとんど死んじゃうと思うので、現実の話なんですけど。外部の目っていうのがありますよね。一般人の、何も知らない人の目にさらされたときに、さらされているのを見たときに、私が外出行事とかの時に1番気がついたのは、やはり人からの視線、目が怖いなと思ったし、この人を

守る、分かってあげるのは私だけなんだな、この空間で私だけが守る人なんだなって。この人、ごっつい不安だと思うんですよ。大勢の中で私だけ障害者って割合なんですから、たぶん怖いんですよ。みんなに見られるんですよ。見ない人の方が少ないでしょ。片足とかないんですよ。見ますよね。それが「ふつう」というか、当たり前やと思うんですよ。



今日集まったみんなは積極的ではないですか。身体障害者にはあまり興味がないと思っていたんで、意見を聞いてみんな興味があるんじゃないかって。興味がなかったら、さっきの永濱君と同じようなことを言おうと思っていましたけど、身近にそういう人がいたら、何日かではほんまに分からないと思うんですよ。関わるのが大切やと思います。何よりも関わるのが大切です。ただきれい事です。こうしたっていうのは違います。ほんまに知ろうと思うのだったら関わってください。みんな悲しいこと、辛いこといっぱい抱えています。「がんばってますね」じゃなくて、「何が辛いですか」の方が、みんなうれしいんですよ。普段聞いてくれる人はあまりいません。聞いてくれる人がいないんですよ。関わるのだったら聞いてあげてください。うわべだけで聞くのなら、その人を傷つけるだけにしかならないので、本気で関わるのなら関わってみてください。私も守る側なので、関わるんだったらぜひよろしくお願いします。

講師 坂東香連さん いろいろ聞いて思ったんが『ふつうの基準』のことについての話なんだけど、私の友達に性同一性障害の人がいます。最初はかなりびっくりしたんですけど、今は大親友っていうぐらいその人のことが大好きで、恋愛対象とかではないんですけどね。体は女、心は男みたいな感じの子なんやけど、ほんまにいい人なんですよ。小さいときから



いじめられよったなどの話を聞いていて、今となっては親友みたいな感じで仲はいいんですけど、やっぱりみんなが知らんことやね。例えばエジプト人の話だとか、障害者の話だとか、みんな知らないから、最初、「えっ？」って思うことがあると思う。私も無知やけど、それを知っていくこと。理解できんこと、分かり合えんことってどうしても人間同士あると思うけど、興味本位ではないけど、覚悟をもってその人を知っていこう、自分を知ってもらおうって思って関わっていくことが大事かなって今日思いました。あと、悪口のことの話やけど、正直私、大人になってもそういうことは言ってしまう。仕事をしていたら愚痴もあるし、聞いてほしいし、大人になってもなかなかぬぐえんことですよ。けど、自分が大人になって思ったんが、傷つけるくらいだったら自分の中に押さえてじゃないけど、傷つけるくらいだったら自分の中で笑い飛ばしてとか、疑って疑ってするくらいなら信じる方が気持ちいいとか。人に対してすごく優しくなろうと、大人になって思いまし

た。今日参加して、中学生達のリアルは話を聞いて、こっちもまだまだ勉強しなければっていう気持ちになりました。まだまだ大人にはなれていないんですけど、もっともっと勉強させてもらいたいなと思いました。



大麻中学校 t 中学3年生のみなさん、今日で中学生集会は最後になりますが、言い残したことはないですか。全然言っていない人達もいるので、何か一言でも、ぱっと思ったことでもいいので話してみてください。

大山中学校 bh 僕には何でも話せる友達が何人かいるのですが、その人になら「ふつう」とか、「ふつうじゃない」とか気にせずに、自分が好きなことを好きなように話せるし、そういう人達と一緒に人権について語り合えるようになりたいと思いました。

大山中学校 bi 僕はこの会にあまり乗り気で参加したわけではないんですが、実際ここに来て、いろんな人の意見を聞いて、今はこの会に参加してよかったと思っています。

吉野中学校 f 私は3年間この集會にずっと来ていました。この集會の雰囲気が好きです。これからもずっとこの雰囲気を守ってってください。



鳴門第二中学校 b j 私は最後の最後に初めてこの集会に来ました。存在も何も知らなくて、先生に誘われて来ました。最初は正直、朝早く起きなくてはいけなくてすごく嫌だったけど、この集会に来て、みんなが熱く討論しているのを聞いて、ただただ圧倒されるばかりで何も言えなかったけど、すごく来てよかったです。

高浦中学校 b k 私はこの会に初めて参加しました。この会をやっていることを知らせてくれました。この会に参加して学んだことを、これからに生かしていきたいです。

中山中学校 n ちょっと話がずれますですけど、植物ってあるんですけど、正直植物の中で一番強いと思うのが雑草なんです。理由はアスファルトとかの隅っこに地味にあるし、ただの引き立て役の感じなんだけど、いろんな所に生えているから、生命力が強すぎる感じで圧倒されるなと思いました。人権とかでも雑草みたいな強さがあれば乗り越えられるのかなと思いました。

板野中学校 b l 私は今年、初めてここに来ました。中学生交流集会に来て、学校の道德の時間にできないような討論を聞いて、いい勉強になったなと思いました。

高浦中学校 b m 今回、この交流集会に来て、たくさんを感じたり学んだりすることができました。身近なところから自分の思いとか心がけから差別はなくしていけるなと感じることができました。この思いを学校に帰っても忘れず、人権学習にもっともっと積極的に取り組んでいきたいなと思いました。

吉野中学校 b n この会に参加し始めたのは今年なので、本大会に初めて参加させていただいたのですが、みんな真面目に取り組んでいて、私なんか来ていいのかなって思ったんですが、雰囲気すごくて、このままがんばって行ってほしいと思いました。



鳴門第二中学校 b o 僕の母が言っていたことなんですが、「ふつうじゃなくてもいいから自分の感性を大事にしてください」と言われて、そうしたいと思いました。

屋島中学校 b p 私はこの会に今年初めて参加したんですけど、こんなに真剣に人権のことについて考えたのは初めてです。私も初めてあった人にはすぐ壁をつくったりしてしまうんですけど、最初から壁をつくらなくて、普通に話しかけていくことが、それが差別をなくす第一歩になるのかなと思いました。

板野中学校 b q 『一人の人間として』の意見発表を聞いて、「障害者を特別な枠に入れる必要はないんじゃないか」という部分にと

でも共感しました。私の母親は小学校の時片足を手術して、未だに歩くのがちょっと苦手です、かくんかくんになってしまいます。買い物とかと一緒に歩いて歩いていると、周りの人がちらちら見てきて、かわいそうやなっているような目で見られるので、そういうのがすごく嫌なので、こういう考えの人が増えたらいいなと思いました。

中山中学校 n 「ふつう」についての意見がよく出たけど、正直「らしさ」も「ふつう」に近いんじゃないかなと思います。よく「女らしくしなさい」、「男らしくしなさい」とよく言う人がたまにいますが、それって女性としての「ふつう」とか男性としての「ふつう」とか決めつけるから、「らしさ」も「ふつう」の1つじゃないかなと思います。



高浦中学校 a g さっき発表したのですが、それに対する感想で、共感できるという意見ももらってうれしかったです。私の曾祖母は目が見えなくて耳もあまり聞こえなくて、いわゆる障害者の一人なので、そういう意見ももらえてうれしかったです。

藍住中学校 i 私もこのような人権交流集会は初めてで、初めは何をするのか全く分からずに来てしまったんですけど、中学生ってすごいな一とか改めて思ったし、今まで知ら

なかったことがここに来ていろいろ分かりました。私の今までの友達の中に身体障害者の友達がいるんですけど、その子は小学生の時に養護学校に転校することになって、その子は耳が聞こえなくて、言葉もあまり話せなくて、そして記憶することがちょっと不自由なんです。でもその子は最後のお別れ会の時に、百人の名前と顔を半年以上かけて覚えて、最後の別れの日に一人ずつ名前をその子の前で言って、作ったクッキーとかを渡していました。私はそれを見て、同じ人間として人としてすごく感動したし、ちょっと違った目で見ている人がいるってことに悔しい思いをしました。やっぱりそういうことに気づけたのもこういう人権を語り合う会があったからだと思うので、本当に今回来てよかったなと、心から思いました。



司会者 ではこのあたりで、全体会午後の部を終了したいと思います。みなさん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題をさらに深く考え、各学校に持ち帰ってください。それでは、全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました。それではこのあと引き続いて閉会行事にうつらせていただきたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。